

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「米アマゾン、プライム会員向けに還元率5%のクレジットカード発行」
- 2) 「アマゾン、スタートアップ企業を支援する新サービス“Amazon Launchpad”」
- 3) 「赤塚に制服・学校用品リユース専門店 子育て中の母親が開業」
- 4) 「LGBT専用の洋服お直しサイト“マダムM”」

1) 「米アマゾンがプライム会員向けに還元率5%のクレジットカード発行」

魅力的なサービスを次々と追加することで有料メンバーのPrime会員を増やし続けるAmazonが、なんとAmazonサイト内で使った金額の5%が還元されるクレジットカード「Amazon Prime Rewards Visa Signature Card」を発表した。

これが最大5%という驚異的な還元率を誇るクレジットカード「Amazon Prime Rewards Visa Signature Card」。Prime会員向けは灰色の「amazon Prime」のロゴ入りカード、Prime会員でないAmazonユーザーは青色のカードとなっており、ブランドはVISAでJ.P.モルガンが発行する。

Amazon Prime Rewards Visa Signature Card(APRVSC)で得られる特典は以下の通り。ただし、すべての特典を受けられるのはPrime会員のみ。

- Amazon.comの買い物代金の5%の還元
- レストラン、ガソリンスタンド、ドラッグストアの利用代金の2%の還元
- その他の利用については1%の還元
- 還元額に上限なし
- 還元分に期限なし、またAmazon.comで取り扱われる数百万の製品に利用可能
- 海外旅行などの国外利用については外国為替手数料なし
- クレジットカードの年会費は無料
- クレジットカード詐欺などによる被害の補償
- VISAが提供する旅行保険や24時間のコンシェルジュサービス

還元については「期限なし」「Amazon.comで取り扱われる数百万の製品に使える」という表現があることから、現金でのキャッシュバックではなくAmazon.comなどで利用できるポイントとして付与されると考えられる。

なお、非Prime会員は5%の還元は受けられず、2%・1%の還元や外国為替手数料の無料化、新しいデザインのカードという恩恵を受けるのみという点には注意が必要。ここでもAmazonはPrime会員獲得に向けた強力な差別化を図っている。

既存の「Amazon Rewards Visa Signature Card」を所持しているPrime会員は、自動的にAPRVSCサービスに引き継がれて新しいカードが送られてくる予定。

なお、新カードの到着を待たずに既存のカードを使ってAPRVSCの特典を受けられる、とのことなので、すでに5%の還元サービスは始まっている。

還元率5%とほかあでは減多にない還元率の高さだ。有料会員という敷居が高いが、アマゾンは着々と増やしつづけている。このサービスは今はアメリカのみだが日本でも違う形で

提供する可能性はある。この品揃えと信頼があれば、企業版など個人向けと差別したサービスを提供できるのではないだろうか。ぜひ日本にも上陸してほしいサービスだ。

2) 「アマゾンがスタートアップ企業を支援する新サービス “Amazon Launchpad”」

アマゾンは、創業して間もない企業の製品やサービスを支援するグローバルプログラム「Amazon Launchpad (アマゾンローンチパッド)」を開始した。アマゾンローンチパッドは、ベンチャーキャピタルやクラウドファンディング、アクセラレーターなどのスタートアップ企業を対象にし、販売、配送などを請け負うプログラム。まだまだ知名度が低く、資金力も乏しいスタートアップ企業に対して、露出の機会を設け、ブランドストーリーを構築し、販売のサポートを行うというもの。さらに、すでに日本以外の8カ国で展開している各国のアマゾンローンチパッドと連携し、グローバルでの販売も支援します。販路もなく、広告費も乏しいスタートアップ企業にとっては、まさに“渡りに船”なプログラムといえる。

販売形態は、基本的にアマゾンマーケットプレイスに準拠する。販売業者から出品、納品をアマゾンにしてもらい、客からの注文と発送をアマゾンが代行するフルフィルメントを利用して展開。ほかにもマーケティングや広告展開、運転資金融資、自社サイトの運営支援なども行う。ユーザーにとっても、クラウドファンディングなどで展開しているスタートアップ企業が持つ斬新かつ先進の商品を目にする機会が増え、しかもアマゾンによる管理で安心して購入できる機会が得られるようになる。

アマゾンローンチパッドは、1月18日11時よりアマゾンのサイトにリンクが表示されるようになり、誰でも利用できるようになっている。

たとえばクラウドファンディングで良い商品を見てもなかなか購入まで至らないことが多いと思う。アマゾンは利用者も多くアプリも見やすいため気軽にチェックでき、安心して購入できる。アマゾン・企業・消費者の三方良しが叶う画期的なサービスだと感じた。一度チェックしてほしい。

3) 「赤塚に制服・学校用品リユース専門店 子育て中の母親が開業」

東武東上線の下赤塚駅、東京メトロ有楽町線・副都心線の地下鉄赤塚駅から歩いて10分ほどの住宅地に1月17日、制服・学校用品のリユース専門店「RIYUCO (リユコ)」がオープンした。

同店では、板橋区や隣接する練馬区の幼稚園から高校までの中古制服や体操着を買い取り、クリーニングなどを行ったリユース品を定価の3分の1以下の価格で店頭販売している。

同店を開業した下山優理子さんによると、「1着3万円前後するものもあり、傷みで買い替えたり、予備で2着目3着目をそろえたりするとなると出費もバカにならない。上着やズボンの穴開き・ほつれなどをリフォーム店で修繕するにも数千円かかる。それならば1万円前後の中古を買おうと考える方も少なくない」という。「ママ友から学生服を譲り受けようとして

も、男女の性別やサイズがマッチしなければならないし、学校や地域で開催されるバザーで入手しようにもタイミングが合わないことが多く、私自身を含めて地域のお母さんたちは苦労している」とも。

下山さんは結婚を機に板橋区に移り住み、保育園児と小学生の2児を育てる母でもある。

「夫婦共働きで会社勤めをしていたが、いつか起業してみたいと漠然と考えていた」下山さんは、学校卒業で不要になった中古学生服を買い取り・販売するリユース事業を手掛ける会社の存在を知り、「これなら自分にもできるかも」と、家族の協力を得ながら独力で開店準備を進めてきた。

学生服の販売店や価についての情報をネットで調べていると、リユース業の会社がフランチャイズ店募集の説明会を開く情報を見つけ、ひとまず参加。その後、自宅近くにリーズナブルな物件も見つけた。「いろいろなことがトントン拍子に重なり、これは『起業しろ』ってことだなと背中を押された」という下山さんは、急いで古物商許可証を取得し、板橋区が主催する起業セミナーに通うなどして店舗経営の基本知識を学びながら、開店に向けた準備を本格化させた。

店作りもDIY精神で進め、店内の壁や外看板に自らペンキを塗り、購入した床材もネット上にアップされた動画を見ながら自身で張り替えた。近隣への折り込みチラシもデザインし、夫の手伝いを得ながら数万部を配って回ったという。店名のロゴには、小学生の長男が描いた愛着のあるイラストを使う。

「どうにかオープンまでこぎ着けたものの、品ぞろえがまだ少ないのが悩ましいところ」と下山さん。「店を開いたことで地域の方にもっと存在を認知してもらい、問い合わせや相談の機会がもっと増えるとうれしい。地域の声もしっかり拾い、店舗運営や学生服・体操着以外の品ぞろえも工夫していきたい。これからの出会いを楽しんでいけたら」と意気込む。営業時間は、火曜・木曜＝10時-15時、第2・第4土曜＝10時-13時（祝日を除く）。

昔は地域のコミュニティでお下がりを譲り受けたりということも普通にあったと思うが、近隣との付き合いが希薄になる現代ではこういうお店があれば助かる家庭は多いのではないか。とはいえそうそう売上を得られるものではないので、お店を運営するのもなかなか厳しいと思うので、地域コミュニティの場を提供するスーパーで仲介したりできないかと思った。ネットだと犯罪的なことに使われる恐れもあるので、顔の見える場というのもポイントだと思う。

4) 「LGBT専用の洋服お直しサイト“マダムM”」

洋服のサイズ直し・リフォームの専門店を、関東を中心に47店舗展開している株式会社アン・コットンでは、LGBT(性的マイノリティ)の消費者に向けた、“ジェンダーレスな洋服”のサイズ直しなどを提供する新事業『マダムM』を起ち上げ、2016年8月にサービスの受注サイトを開設する。

※ LGBT(性的マイノリティ)とはレズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(心と体の性が一致しない人)の頭文字に由来し、性的少数者を意味する。

サービス立ち上げのきっかけとなったのは、同店舗の受付カウンターで「妻の代理で…」と言いながらスカートのサイズ直しに来店した男性客の存在。何度も来店する中で、この男性客は嘘の理由を言いながら、自分のスカートをサイズ直しに来ていることに気付いた。ファッションを楽しむための洋服直しに“嘘”をつかなくてはならないという事実に気がついたアン・コットン社では、LGBTの人達が堂々とサイズ直しの依頼ができるサイト『マダムM』を開設することを決めた。

同社は、東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、新潟で店舗を運営しているが、「マダムM」の新サービスでは、専用サイトからオンラインで注文を受けた後、洋服を送ってもらい、サイズ直しが完了した後に、返送する方法を予定している。

大幅な洋服の修正依頼については、顧客との対話が必要になるが、LGBTフレンドリーな接客をするための社内研修にも力を入れていく。また、配送についても、顧客の匿名性を配慮して、希望があれば、コンビニ受け取り・宅配便の営業所留め・郵便局留めなどにも対応していく。

■ 『マダムM』 公式Facebook

<https://www.facebook.com/askmadamm>

■ 洋服直し・洋服リフォームのお直しサロン アン・コットン

<http://www.encoton.co.jp/>

日本ではまだ「ジェンダーレス」「LGBT」という単語に馴染みがないが、海外では定着している言葉で日本でも近年少しづつ耳にするようになってきた。日本では趣味で女装する人も多くなっているが、そういう人から真剣に悩んでいる人まで利用でき、配慮されたサービスとなっている。今後日本でも「ジェンダーレス」向けサービスも多くなり、自分に嘘をつかなくても良くなっているだろう。